

## 平成24年度第2回水産研究所研究評価委員会（事後）評価結果

◇日時：平成25年3月18日（月） 9：30～13：30

◇場所：水産研究所2F大会議室

◇評価対象の研究課題

- (1) 英虞湾漁場環境調査
- (2) 栽培漁業技術総合開発研究事業
- (3) アユの減少要因の解明に関する研究
- (4) アサリ資源回復促進技術開発事業

◇評価結果

| 評価項目<br>評価対象研究課題 | 目標の達成度 |   |   |   | 技術の<br>発展性 |   |   | 技術移転・<br>普及性の<br>具体性 |   |   | 今後の<br>研究方向 |   |   |
|------------------|--------|---|---|---|------------|---|---|----------------------|---|---|-------------|---|---|
|                  | A      | B | C | D | 1          | 2 | 3 | 1                    | 2 | 3 | 1           | 2 | 3 |
| 英虞湾漁場環境調査        | 1      | 2 |   |   | 2          | 1 |   | 1                    | 2 |   | 1           | 2 |   |
| 栽培漁業技術総合開発研究事業   |        | 3 |   |   | 1          | 2 |   | 1                    |   | 2 | 1           | 2 |   |
| アユの減少要因の解明に関する研究 |        |   | 3 |   |            | 3 |   | 1                    | 1 | 1 |             | 3 |   |
| アサリ資源回復促進技術開発事業  |        | 3 |   |   | 2          | 1 |   | 1                    |   | 2 |             | 3 |   |

注) 表中の数字は出席された研究評価委員3名の評価結果（人数）

【目標の達成度】

- A：目標以上達成
- B：ほぼ目標通り
- C：一部不十分
- D：不十分

【技術移転・普及性の具体性】

- 1：技術移転の可能性あり
- 2：製品化・普及への具体性あり
- 3：技術情報として有効

【技術の発展性】

- 1：課題全体としての発展性あり
- 2：一部の中小課題について発展性あり
- 3：発展性は少ない

【今後の研究方向】

- 1：新規課題として未完成技術の開発を図る
- 2：未達成課題については継続して完成させる
- 3：課題を終了する

◇評価結果のまとめ

1) 目標の達成度

一部の研究課題に関しては「一部不十分」との評価でしたが、概ね「ほぼ目標通り」の評価を頂きました。

2) 技術の発展性

すべての課題で「課題全体として発展性あり」または「一部の中小課題について発展性あり」の評価を頂きました。

3) 技術移転・普及性の具体性

全ての課題について「技術移転の可能性あり」の評価を頂いたため、成果の技術移転の検討

を進めます。また、「英虞湾漁場環境調査」および「アユの減少要因の解明に関する研究」では、「製品化・普及への具体性あり」の評価も頂いているので、今後は成果の普及を目標として取り組みます。「栽培漁業技術総合開発研究事業」、「アユの減少要因の解明に関する研究」、「アサリ資源回復促進技術開発事業」については「技術情報として有効」との評価も頂いたので、生産現場での展開を目指して、関連する課題、あるいは今後の計画の中で、技術の向上に努めます。

#### 4) 今後の研究方向

「英虞湾漁場環境調査」「栽培漁業技術総合開発研究事業」については、「新規課題として未完成技術の開発、未達成課題の完成を図る」との評価を頂き、また、「アユの減少要因の解明に関する研究」「アサリ資源回復促進技術開発事業」については「未達成課題については継続して完成させる」との評価を頂きました。

これらの評価過程で頂いた委員の意見を参考として、効果的に研究活動を行い、技術の完成、普及に努めます。